

第2回 江府町義務教育学校設置準備委員会【議事録】

■期 日：令和2年 6月26日（金）

■時 間：19：30～

■場 所：防災・情報センター 2階 研修室

<会議出席者>

【委 員】

手島委員長、谷田副委員長、井上委員、中田委員、河上委員、宮本委員、
川上委員、稲田委員、山川委員、北村委員、梅林委員、瀬尾委員、竹内委員

【事務局】

富田教育長、加藤課長、景山学事担当課長、岡田主事

1 開会（委員長挨拶）

第2回ということで、議題が2つあるが、そのことについて話を進めていければと思っている。
コロナもなかなか終息というわけにならず、東京が54人発症ということで、それぞれ職場でも、
あるいは学校でも大変神経を使いながら、日々働いておられると思う。

2点について、できれば今日結論を出したいと思っている。

2 報告・説明（事務局より）

- ・校名・校舎名の応募状況について（募集期間 6月10日～7月10日）
- ・第1回の概要について（論点メモより）

◆事務局説明（5・4制の効果）

- 6年生が日常的に中学生と触れ合うことで一足早い精神的成長と進路意識の高まりが期待。
- 教科担任制（中教審の方針）が容易に実施可能。教員の持ち時間を平均化。
- 中学校校舎での人数確保による日常生活の活性化。
- 小中の教職員交流による授業改善や児童生徒理解の深まり。

◆ 意見交換

【教科担任制について】

- 専門性を生かした指導による効果(知的好奇心に応える等)が期待。教員の持ち時間の平均化により、働き方改革にもつながる。
- 1人が3つの学年を指導することは負担がある。その上で、もう1学年増えると負担が増すのでは。
- （6年生は）6年担任と教科担任と一緒に教えるのがよい。6年担任は、中学校の免許があるほうがよい。基本的に両方の免許を持つ先生がいることが大事。

【ブロック制について】

- アンケートでは6・3制がよいとの意見が半数以上。（5・4制の）メリット・デメリットがわからないという理由もある。（5・4制について）周知が必要。
- 5・4制の良さがわからない保護者は不安。変わり目の保護者へのケアをしたうえで、5・4制の良さを説明すれば理解していただけるのではないかと。

○教員へのアンケートでは、若手は6・3制だったが、ベテランは5・4制がよいと考えている。
○不安はあると思うが、5・4制の義務教育学校にすることで、4年かけて自分の進路を考えることができる。

○生徒数、校舎のキャパ、義務教育学校ということを見ると5・4制。中教審の資料（高学年の教科担任制の推進）を見ても、5・4制がよいと思う。

【義務教育学校について】

○小学校の持ち味と中学校の持ち味を組み合わせることが大事。教員を入れ替えることで、校種によるそれぞれの良さに気づくことも期待できる

3 協議

(1) 校名・校舎名の選定について（事務局説明）

委員 校名を書いて、校舎名を2つ書いているが、校名はなかなかいいが、校舎名はちょっといまいちというケースもある。3点セットで1つの応募になるのか。

事務局 案としては、選考を3回繰り返すイメージ。まず校名のみで決めていく。校名は校名で選定し、校舎名は校舎名でと別々に選定していくことで考えている。

委員 校舎名はセットで考えるのか。

事務局 校舎名は対で考えてくださっているパターンが多い。その意向を汲むとなれば、2つの名前をセットで考えてもらうのがいいのかもしれないが、より多くの方の意見をということなら、別々であっても問題はないのかもしれない。（決め方は）最終的にここでの協議で決めていただくことになる。（選定を）3回繰り返すことになるのかもしれないが、（校舎名）は割と対で考えてくださっている、谷・山とかいう感じ、そういうイメージで書いてくださっているなというのは印象としてある。

副委員長 みなさんからのご意見をいただきたい。

委員 応募作品の一覧表などを見て選ぶという形になるのか。

事務局 （応募票は）校名に込めた思い、理由、願いも一緒に書いてもらう形にしている。それも含めて（選考）ということになると、（応募票を）並べて、これがいいというものを、例えば付箋を6枚持っていて、これがいいというものに貼っていただき、付箋が多いものから6点一次選考で選ぶことができればと思っている。

委員 名前は伏せないですか。

事務局 名前は伏せようと思っている。名前がわからないほうが公平性が保てるので、名前を伏せて、思いとか名前（校名・校舎名）とかを見ていただきながらと思っている。

副委員長 その他、いかがか。

今出ている質問からすると、セットで考えられているものをセットとして取り扱うか、ばらばらで選定し、話し合いで決定するとき「ここここはセットになるな」ということでまとめていくということは考えられるかもしれない。ご意見をいただくとして、名前だけでなく思いも含めて選定の参考にしていくということの確認をしていただいたが、この点はよろしいか。

《異議なし》

考えた人の名前はふせるが、校名に対する思いというようなことも選考の対象として考えていくということで。

最初からセットとして考えていくのか、別々に選んでいって、最終的にはセットとして考えることも考慮していくというようなことでいくのか、そのあたりについてはご意見いかがか。

委員 校名・校舎名を決めるということだったが、まず、校名を決めなくてはいけないのでは。校舎名よりも。まずは、校名を決めて、それにふさわしい校舎名を決めるという考え方のほうがよいのではないかと。まずは、セットあるいは別々にということではなくて、まず校名を決める。その後、校舎名を決めていくという考え方のほうがスムーズではないかと思うが。

副委員長 他の方はいかがか。よろしいか。セットでということではなく、バラバラで校名をまず決めるということ。その後でふさわしい校舎名を選んでいくという委員の意見であったが、これについてはいかがか。よろしいか。《異議なし》

では、まずは校名を決めてから順次決めていくということではよろしいか。意見がなければこれで決定とさせていただきますが、いかがか。

委員 割と二つで呼応して書いているケースが多くて。学校名はそれでいいが、校舎名のほうは、「第1」、「第2」とかセットで考えている場合が多いが、セパレートで考えるということではよろしいか。

事務局 校名・校舎名で2回で終わらせるのか、校名・校舎名1・校舎名2で3回でやるのかということはどうか。

副委員長 いかがか。(校舎名は) セットもあるがセットでないものもあるということか。

委員 セットのものもあるが、セットでないものもあって。一つだけ保護者のも入っていたが、考えて書かれていて、セットだからこそ生きるなという書き方をされているのを見て、どちらがよいのかと迷った。セットがよいのか、段階を踏んで1・2と、1つ目はこういうイメージ、2つ目はこういうイメージとステップアップするような名前になっているので、そういう考え方もいいねと。分けるなら分けるでもよいが、セットで考えるというのもありだなと思ったので。

委員 1枚のシートをそのまま置かれて選考する形なので、思いを見るのであれば、まずは委員が言われたように校名は決まるので、校舎名は、セットになっているのを見ながら選考するので、別々という考え方だけれども、そこは思いなどを見ながら、いいと思えば(同じ応募者の)校舎名の両方のところに付箋を貼るということになるので、別々ということでもいいのではないかと。

副委員長 いかがか。審査をされるときに、セットにしたほうがいい選び方をされる方もおられると思うが、それは選ばれる方の考えだと思いで、形としては別々に順番にということではいいと思うが、よろしいか。《異議なし》

では、そのような決定の仕方をすることで、お願いしたい。校名・校舎名の選定のことでは意見がなければ次に行きたいがよろしいか。

(2) ブロック制について

副委員長 次回の委員会では、おそらくこの校名・校舎名の選定が会のほとんどの時間を使うということになると思われる。前回、6・3制なのか5・4制なのかということで話をしてもらって、みなさんもどちらがいいかなとかメリット、デメリットももう少しわからないと判断できな

いぞとか、そのようなお考えで来られていると思う。できれば今日、このブロック制については、方向性をこれでいこうというものが、決められたらよいと思っている。皆さんのご判断をお願いしたい。

事務局 (説明：鹿野学園、江山学園の現状について)

副委員長 資料について、質問や確認したいことなどあれば。

事務局 参考までに。江山学園は、時程を見てもらうとおわかりかと思うが、2つではなくて3つ(のブロック)に分けるという考え方。1 2 3 4、5 6 7、8 9と分かれているので、小学校5年生の扱いについてどうしておられるかということについて聞いた。資料では、江山学園の部活は「未確認」となっているが、5・6年生ともに部活には不参加である。

副委員長 私から質問してよろしいか。江山学園と鹿野学園であるが、児童生徒の数はどれくらいか。

事務局 少々お待ちいただきたい。

副委員長 規模的には江府町と変わらないくらいなのか。

事務局 各学年1学級。支援学級が若干多いので、学級数としては多くなるが、通常学級は1学年1学級。人数的には、鹿野のほうが多い。江山はもう少し多い。

副委員長 規模的にはものすごく差があるわけではないのか。

事務局 江山は200人ちょっとだったと思う。鹿野はうちと同じか少し多いくらいか。

副委員長 他に確認するべきところがあるか。

委員 鹿野学園は分離型で、江山学園も分離型？

事務局 江山学園は施設一体型である。江山学園がスタートするときに新しく校舎を建てて一体型としてスタートしているので、校舎建設も含めて検討されている。分離型は、鹿野学園。旧小学校と旧中学校の両方の校舎を使っている。江山学園は、1中学校2小学校あり、それを1つにした学校である。

委員 保育園の保護者会でも気になるという話があったが、クラブ活動の扱いについてはどうか。

副委員長 クラブ活動とは部活のことでよろしいか。この後の協議の中で話を進めていきたいと思うが、まずここで提示のあった資料の中で質問とか確認はよろしいか。また必要があれば出してもらえたらと思う。

事務局 鹿野学園は、小学校校舎は131名。いわゆる中学校の校舎(王舎城学舎)が98名。両方合わせると229名。江山が、児童生徒数合わせて227名。

委員 部活と書いてあるのは、部活というのは中学校(の部活)？

事務局 中学校のいわゆる部活動である。

副委員長 中学校の部活動に小学校年齢の子が参加するということ？

事務局 そうだ。参加しているかどうか確認したところ、両方とも参加はないと。特に鹿野は新6年生が同じ中学校舎に行くわけであるが、実際に部活をしているのは、7年生、8年生、9年生のみ。6年生は参加をしていない。

副委員長 江山は参加ということだったが？

事務局 江山も不参加。7、8、9年生のみが参加。

副委員長 どちらも参加していないということで。他にはよろしいか。

では、このブロック制について協議していくわけだが、前回、メリットもデメリットもしっか

り分かったうえでないと判断できないというような意見があった。まず委員から、不安なところやもう少しはっきりしていきたいとか、知りたいとか、そういったことを出していただき、そのことについて協議を進めていきながら、6・3制にするのか5・4制にするのかということを検討していきたいと考えている。小学校の方で(保護者に)意見を聞かれたと思うし、保育園でクラブのこともどうなんだということも出ていたということなので、そういった心配なこととか、そういったことを最初に出していただきたい。

まず部活動ということについて。発言いただいたことはホワイトボードに書き上げていこうと思う。まず、部活動、クラブ活動についてはどういう扱いになるのかということ、検討していきたいと思うが、その他いかがか。

小学校の方では、このことはどうなんだろうというような話はなかったか。

委員 この前話をしたことから進んではないが、個人の意見として、不安になることを挙げてから、このブロックがいいですねってするよりは、ブロックを決めて、その中で新しく始めること、続けていくことを決めたほうがいいのではないかというのが私個人の意見。みんなで確認して話していないし、どっちがよくてどっちが悪いとかはわからないが。問題ばかり出して、その問題がテーブルの上からあふれてしまったら、何も決まらないような気がして。そこが引っかかっている。

副委員長 どちらにするかを決定するにしても、まず決定的にこの問題が解決できないということがあろうと思ったら決められない。前回も不安なことがあるようだったらひとつずつ「解決できるよな、これは」ということをした上で、解決していくことができれば、みなさんが納得してこっちだなというふうに分けられるのではないかという意見もあった。

今おっしゃったのも、まず決めて、決めたことに前向きに向かっていくということもとても大事だと思うので、次回からもその方向でどんどん進んでいくためにも、今回みなさんの意志をどちらにするのかということを決めればと思う。何か確認しておくべきことはないか。

委員 今の小学4年生は、仮に5・4制に決まった時に、このまま普通に上がると6年生を経験せずに5年生から中学校校舎に上がるという形になる。リーダーシップの発揮の機会というのは、今の状態だと減るようなことになるのではないかと思うが、そのフォローというか、いいやり方があるって5・4制になっていくのかなと気になって、その確認だけはしておきたい。

委員 クラブや委員会とか自治的な活動が学校の中では組まれていて、児童会という活動などで(最高学年が)トップとして学校を回し進めていくが、(5・4制になれば、6年生は)向こうの校舎では中学校の方の委員会に参加すると思う。クラブは、部活に出なければ、クラブ活動やらないというふうになるが、クラブ活動は年間11回くらい(している)。例えばクラブだけはこちらに来るとか、やっぱり部活を体験させたほうがいいとするのか、そのあたりで6年生が宙ぶらりんになるのは困る。どこの場に行っても自分たちの力が発揮できた、やりきったという感じがほしいと思う。自治的な部分で参加できたというのがほしいと思うが、クラブや委員会などの扱いはどうするか。

副委員長 主に今の小学校4年生の児童をどうしていくのか、フォローができるのかといったあたりのことだとは思いますが、よろしいか。その他は。

委員 先ほどの委員の話と関係するが、PTAの活動をどういう形にするか。5・4制にしたときに、

5と4でPTA活動を分けるにしても、さっきの話で小学校にも行くということになると、そっちとも関わってくる。PTA組織をどう考えるのか、考えなくてはいけないのでは。

委員 PTA組織については、一つのPTAというふうに考えていて、今、どんな専門部（が必要か）とか、まさに話し合いがスタートしたところである。

委員 ではもう一つでやるという？

委員 そうだ。

副委員長 校舎が分かれるので、分かれた上でどういう動きをするかというのはこれから決めていかなくてはいけないのは確かだが、団体として一つの団体だということは確認できているということをお願いしたい。その他いかがか。

委員 ブロックを決めていくうえで、どちらにしてもこの委員会の中で「これがあるから、5・4制にしたよ、6・3制にしたよ」という強み、それをしっかりここで共有しておけば、PTAでも保護者会でも保護者にしっかりと説明しておろしていける。ブロックを決めた上でその強み、それも一緒に決めて言ったほうがいいのではないか。

副委員長 そのブロックに決めた根拠というか。

委員 いろいろあるとは思いますが、それをしっかりとみなさんと共有して決めていけたらと思う。

副委員長 他にはいかがか。

委員 前回、中学校の先生に教科担任制で、英語とか音楽とか教えてもらえるなと思っていたが、江府小江府中合わせても規模がすごく少ないので、一人の先生が4学年やるのは厳しいという意見があった。そのへんを聞いてみたい。

委員 3学年も大変なのに、4学年は大変だなという声は出ている。厳しいなというのが教員の実感。

副委員長 教科担任制について、中学校校舎の先生方の負担があるのではないかという意見でよろしいか。

委員 5・4制だと6年担任が来て中学校と一緒にいる。6年担任の先生は29や30時間ある中の23時間ぐらいにということなので、何かの教科を中学校がとらないと、そこはうまくまわらない。職員の配置とか教科の配置によって、持てる教科と持ちにくい教科がでてくるかなと。

副委員長 教科担任制、6年担任（小学校校舎から来る担任）の持ち時間のことも考えていく必要があるということ。今回は、結構入り乱れるような思い切った人事をやっていくということも考えられるのではないかということもあったので、実際は6・3制になっても5・4制になっても、教員の交流というか持ち時間の共有というか、どうしていくのかなとは思いますが、そこも検討課題になると思う。その他、いかがか。

事務局 参考までに。鹿野、江山の教科担任制がどこまですすんでいるか（を説明させていただく）。江山は校舎が一つで（先生の）移動がない。6年生がいわゆる中学校舎に行くのが鹿野学園。

（鹿野学園は）国語は、1人が4学年を持っておられる。美術、音楽は3年生以上、3456789の学年を持っておられる。体育は、6789の学年を持っておられるとのこと。社会とか数学、英語とかに関しては2人教科担任がおられるので、6789という形。理科は、1人が小学校の免許も持っておられるので、理科は2人のうち1人は中学校、つまり中1中2中3

の理科を教え、もう1人は小学校の免許をもっておられることから、5年生と6年生、それに1年生と2年生の書写を持っておられるというような話もあった。

副委員長 1年生と2年生の書写というのは、小学校の1年生2年生ということか。

事務局 そうだ。(先生の持ち)時間数の平板化に校長先生として思いを持っておられるという話もあったので、そういった中で協力してやっておられるのだと思う。

委員長 特に英語。今年から3、4年生で英語活動が始まった。従来5、6年がやっていたのが、3、4年生におりてきた。35単位。5、6年生は教科として英語科が入ってきた、中学校でまた3年間するなかで、小学校で英語(を指導できる先生)がおられないといけない。人事の関係もあるのでうまくいくとは思いますが、中学校は英語の先生が1年生から3年生まで、1人であれば。それが小学校もということになると、できますよということになるかもしれないし、3、4年生、5、6年生で指導しなくてはいけない状況が今年から発生しているので、重点的に小学校で英語の指導ができる人が必要。だれでも子ども相手だからできるではなくて、きちんと教科の専科で英語の免許のある先生がということにしないと、いい加減になってもいけない。小学校も大変だとは思いますが。

事務局 前回、委員からも専門的な知識があることで子どもたちの興味関心が高まるという話があった。鹿野学園は、先ほど委員長からもあったように、中学校の先生2人おられて3・4・5・6・7・8・9年の外国語と英語は、全てその教科担任の先生が持っておられる。江山は、5・6年生については中学校の先生と学級担任とのチームティーチング2人で指導されている。スキルを持った教科担任が、専門性を活かす意図があるのかなと思う。

副委員長 外国語活動。今話題になっているのは、小学校と中学校の教員の持ち時間数のこととか解決できるのかということの心配。驚いたのは理科の先生が小学校1・2年生の書写をもっているということ。小学校の教員の負担を軽減して、小学校の教員の時間的な余裕を作って指導に活かしていくということもあってなのかなと思う。工夫によっては、小と中の教員の協力体制でうまく回り、みんなが分担をしながら時間の余裕も作りながらやっていけるのかなと聞きながら思ったところ。他にもあれば。

委員長 部活のこと。これ(資料)は、江山と鹿野の例であって、この通りにする必要はないと思う。小学校6年生は体力がある、昔よりも。肺活量の大きい子どももたくさんいる。部活ができる力もエネルギーももっている。それがやりたいということであれば、やったらいと思う。流動性を持たせて、委員が言われるようにブロック制を決めて、やりたい状況であれば、小学校1年生でも、2年3年4年生についてもやるかなあとか。まずはブロック制を決めておいて、ゆとりを持たせたほうがよいのではないか。

副委員長 ブロック制、部活のことにしても、6年生から部活をするべきとなれば、6・3でも5・4でも取り組もうと思えば取り組めることかもしれないが、今挙げていただいた中には、5・4じゃないとできないということや、6・3でも5・4でもできるというようなことや、いろいろあるとは思う。この内容をみなさんと検討していきながら、このブロックにする理由、強みを見つけてということもあった。この部分を江府の子どもたちの教育に強みとしていきたいというものを見つけていくためにも、今挙げられたものについて検討していきたいと思う。ブロック制を今日できれば決めて、決定を出したいと思う。

現在の小4年生のリーダー性をいつ養うか。小6を経験していないことについて、小5までで次は中学校校舎に行くということについて、フォローはどうするのかというご意見があったが、みなさんはいかがか。もしくは、事務局から何かあるか。

事務局

5・4制を前提として考えているが、どこのタイミングでもそのことは生まれるのはやむを得ないことではある。そこは6年生と5年生を一体的に扱って、いわゆる最上級生的にそういった思い出も作らせるし、頑張らせるということを小学校の段階でやっていくということが前提としてあると思う。もうひとつは、入学をしていくときに、6年生として中学校舎に行く第1期生になる。そこの部分の誇りというか、自分たちがここを切り開いていくんだという気持ちで、自分たちがここで頑張ってそれを後輩たちに見せていくんだというようなところも、逆の考えでいけば、その子たちにしか味わえない部分なのかなと。おっしゃるように、6年生という段階を踏まない学年がどうしても生まれるというところはあるので、そこは、できるところでフォローして小学校段階での思い出なり、みんなをひっぱってきたというようなところは作っていかないといけないというのは、前提としてあるとは思う。

副委員長

いかがか。

委員

ここには挙がっていないが、例えば6年生を送る会は5年生が一生懸命企画して6年生を送り出していくようにしていた。自分たちは送る側で送られないことがなくなってしまったときには、そのままいってしまう。5年生も送られて6年になって向こうに行くというときに、4年生以下の人たちが、ちゃんと6年生を送り出してくれてさらに頑張ってくれたねということで、5年生に対して来年は6年生だけ向こうで頑張ってくださいということを4年生以下ですることもある。大変だが、ここは力を出して頑張って、頑張ってくれた5年生を6年生として送り出すんだというようなことも欲しいなと思う。

副委員長

そのあたりは、可能か。難しいということか。

委員

大変であるが、頑張るんだというところがない。「そこはいいや」とはできないと思う。力を合わせて、保護者の人も協力してもらって、来年1年間は大変だけどやるということなのかなと思う。

副委員長

仮にそういうことになった時に、小学校としては、1回最初で最後の会という感じになるかもしれないが、工夫しながらしっかりやっていくことは可能ではないかということだがよろしいか。

委員

保護者も参加してというようなことがあってもいいかなと思っている。

副委員長

そういったことや、第1期生になるということや、この学年の子たちでなければ味わえない部分があるというようなことも今確認できたのかなと思うが。この件についてはどうか。他に意見はあるか。

続いて、6年生が自主的に参加できるものをというところで、特に今の小学校4年生の子どもたちに対してのことだと思うが、いかがか。

委員

ここ(資料の鹿野学園の様子)を見ると、水泳大会と陸上大会の練習の時だけこちら(小学校)の校舎にやってくると書いてあるが、自主的に参加できるイメージはなく、向こう側の校舎でやっていくのかなと思うが。委員会は中学校側の委員会になると思うが、クラブには出ないのかなと。

- 副委員長 そこも、今後みんなで考えていくところである。
- 委員 部活も、中学校がやっている部活と、時間の問題とか、十分対応していけるのか心配もある。
- 副委員長 クラブ活動については教育課程の中に入っている内容であるので、10時間程度というのは何らかの形でしていくことにはなる。そこはどうかしてやっていくしかないところだとは思いますが。
- 委員 例えば、体育を5校時にして、5校時体育、6校時クラブという割り振りもできるのか。6校時体育をやって、さらに放課後水泳をすとか、組み合わせでできるのかもしれない。これ（校舎間の移動）は、歩いていくのか。
- 事務局 参考までに。鹿野が極力校舎の移動はなしとしておられる理由は、他の移動手段がない、歩きしか移動手段がないというのが大前提としてあるから。鳥取市立なので、他の学校のことも考えた時に、ここだけにそういうサポートというのが難しいというところがあるのではないかなと思う。勝手な想像ではあるが。一方で江府町の学校はここしかないので、移動の手段について子どもたちにサポートするというのは、鳥取市立より江府町立の学校の方がフォローしやすいと思う。歩きしか手段がないとなれば、こういうやり方しかないという考え方は鹿野学園の校長から伺えた。環境の違いとか、多くても20人に満たない学級だということを考えた時に、マイクロバスの的なものがあれば移動できるという、うちの場合は小回りがきくよさがあるのではと思う。
- 副委員長 今、委員もどうかすれば、組み合わせればとおっしゃっていたが、バスとかの方法もできるのではないかなという具体的な話として出していたのかと思う。
- P T Aの組織については先ほど話があった。これだから5・4なのか6・3なのかという強みをとということがあった。教員の持ち時間のやりくりということの良さとかいうことも含めて先ほどから少しずつ出ているのではないかなと思う。前回も事務局から6・3制はみんなが経験しているのである程度こういうことだなというのがわかるけれども、5・4制の良さはこういうことだというのは前回も示されてはいたが、そのあたりで事務局からもう少し話していただいてよいか。
- 事務局 1ページの論点メモに4点ほど挙げているが、もともと6・3制というのが何十年続いているかわからないがその当時の子どもたちとの変化は精神的な発達も変わってきているという前提でもあるし、江府町の子どもの進路意識だとかそういった精神的な成長を早くに伸ばすという環境を整えるという意味で考えれば、6・3制よりは5・4制というのが、うちの子たちにはそちらのほうがよいのだろうと思う。6年生までは小学校でのびのびといったところもあると思う。それはどちらをとるかという部分ではあると思うが、だんだんに精神的な発達段階とか自己肯定感などの部分も加味して考えた時に、そういった意識とか力をより発揮できるという点で5・4制がよいと思う。もうひとつ大きいのが教科担任制、副委員長がおっしゃったが、6・3制でも教科担任制はできると思う。ただ、6・3制にした場合うちの学校は2つの校舎に分かれるということで、6年生で教科担任制をしようと思ったら、必ず中学校の先生が小学校に移動されないといけないという問題が出てくる。6年生が中学校舎に行くとなれば、この教科担任制がより容易に実現可能というところが大きい気がする。やろうと思えば、朝中学校の先生に小学校に行ってもらおうというようなことでできると思うが、5・

4という形で6年生の段階の子どもたちが中学校に行くということで、実現がより容易になると思う。あとは（各校舎の）人数の確保ということは当然あるし、授業交流については6・3でもできるが、主にはその2点がうちの学校のメリットとして非常に有効に機能するのではないかと。

副委員長 もう一つ確認したい。もし、6・3だったら小何名・中何名、6・4だったら小何名・中何名というような人数は今わかるか。

事務局 ひとつの学校になるので、いわゆる学校の中での分掌の割り振りになるので、それは学校の自由だと思う。

副委員長 児童生徒数について。

事務局 中学校は35か36。少し前の資料なので1、2名前後するかもしれないが、小学校が86。

副委員長 これは5・4になった場合の人数か。

事務局 もし5・4制にした場合は、中学校舎は44で小学校のほうでは79。なかなかイーブンには（ならない）。学年の数も違うので。前回お話しした生徒数のことも考えると、アンバランスさは若干解消されるという点も、5・4制の1つのメリットになる。

副委員長 中学校は各教科の先生、教科担任の先生がおられて、ある程度の数がおられるということもある。

委員 中学校は3学年（3学級）になると、教員は8名になる。8名で、校長以外の教頭含めて教員が7ということになる。

副委員長 今、強みのところはどうなんだという話があったが。それと、鹿野のほうは、鹿野学園も同じように6年生にならずに中学校にいった子どもたちもいるのか。

事務局 いる。

副委員長 そのあたりの話とかは鹿野学園から聞いているか。

事務局 移行期の取組については確認をしていない。

副委員長 始まってしまったら問題があったということは聞いていないか。

事務局 始まったら、保護者が心配するようなことはなかったと聞いている。6年生に（対する支援）というのは、この資料に挙げたようにT2として担任の先生が入るということで、いわゆる移行期的な部分も含めて中学校には、完全にならないというところもあって、教科担任制はするけれども様子を見てもらいながら実践されている。今年度、担任の先生は中学校籍の先生。去年は小学校籍だった。小学校籍の先生で中学校の技術を持っておられたので、担任をしながら中学校の技術をみるというような形をされていた。今年はその先生は6年担任ではないので、小学校のほうから中学校に行って技術を教えている。

副委員長 移行期の学年が心配という話があったが、鹿野学園の例を聞くと、多少なり（不安は）あったかもしれないが、すぐに慣れて特に問題はみられなかったということではいいか。

このブロック制をどうしていくかというところだが、6・3なのか5・4なのかというところだが、今課題を挙げていただいて、5・4のメリットのあたりを今事務局に話をさせていただいたところであるが、できれば、どちらにしていこうかをここで決めていきたいと思うがご意見いただける方はあるか。

委員 令和3年度という準備ができる期間が幸いあるので、小学校の先生も中学校の先生も移行し

ていくための準備も加わるとすごく大変になるというのは想像できる。令和3年度、この今の4年生と5年生が小学校のリーダーとしてやっていくのだという思いを小学校で育てていただいて、うまく移行できるように令和4年度からスタートできるように（した上で）5・4制がいいと私は思っている。

副委員長 いかがか。

委員 私としては義務教育学校そのものは良いと思うが、5・4であるべきか6・3であるべきか、こっちがいいというところまで至っていないというところである。5・4ありきでこの義務教育学校がスタートしたが、僕が義務教育学校がいいなと思うところは、先生間の移動ができるという点であった。生徒が移動するのではなく、先生がそれぞれ移動できるということについて、僕は小学校の生徒が専門的な教育をより早い段階から受けられるということについて、それがいいなと思うところなので、それが必ずしも5・4でないとできないということではないと事務局からもあった。委員長からもあったように外国語もどんどん低年齢から教育を進めていくという中で、英語を今まで教えておられた先生が小学校の低学年から教えていただくのだと思っている。部活（の在り方は）はどちらかというその後なのかなと思う。あと、小学生が発達が早くなっているというのは確かにあると思うが、それはあくまでアベレージで、大きくなる人もいれば、まだやっぱり子どもだなという子もいる。大きくなった子がアベレージで高くなったからそれに合わせていくという考え方は、そういう考え方もあると思うが、時期尚早ではないかという発言を昨年度させていただいている。

副委員長 いかがか。

委員 私は、生徒数とか校舎のキャパとかそういうのを考える。それから前回両校長から言われた話の中で、やっぱり5・4制だという話もあった。それからやっぱり中教審の方針に沿った形で教育をすすめるというとき、一番スムーズなのはやっぱり5・4制なのではないかと。何より義務教育学校にして、小さいけど小回りがきいて、子どもたちのために教育するという意味で言うと、やはり5・4制をとるほうがメリットが大きいのではないかと感じている。

副委員長 ありがとうございます。いかがか。

委員 いろんなお話をうかがったところで、5・4制にするところ。子どももそうだが、教える先生方も、携わる方々としてしっかりとやりやすいように、指導しやすいように流れが作っていったらと考えているので、5・4制のほうでいいのかなと考える。

副委員長 いかがか。

委員 私が義務教育学校で一番いいなと思ったのは教科担任制。先ほど事務局からあった、動きやすいというのも5・4制がいいと思う。そこにはやっぱり子どもたちのケアとか大変な部分はあるが、さっきも検討委員会の中でもあったように、100%目指してということで、しっかりとケア、子どもも保護者もしっかりしていけるように（した上で）、5・4制という感じ。

副委員長 どうか。

委員 5・4制が全くわからないので想像できないが、私は5・4制でもよいのではないかなと思う。あと、移動手段は決めていただきたい。行き来をするのであれば。実際保護者でもそこが引っかかっている方もおられる。私はそれ（5・4制）がよいと思うが、移動と、あとは4年生の保護者の方も不安があるという話も聞いているので、4年生の保護者、5年生もだが、入学式

がないので。子どもたちのケアというか、しっかり決めていけたらと思う。

副委員長 いかがか。

委員 前回の時から5・4制という考え方があったので、5・4制だったらこういうことがあるのではと考えることが多かったので、先ほどのような質問もあったが、最初に委員が言われたように、決まってそこから不安要素とか不安を取り除く作業のほうが、たぶん大事なことだと思う。決まったところで（不安を）なくしていく。鹿野がスムーズに始まったというのはたぶんそれなりのしっかりとしたものをされたのだと思う。参考にできるものと、独自で江府の子どもたちのためにした方がいいのではという意見、江府なりのというのが大事かなと思うので、そちらの議論の時間をとっていったほうがよいのではないかと思うので。

副委員長 いかがか。

委員 最初に話したように、どっちかに決めた方が、これから先の話し合いがスムーズに行くのかなという考えは変わっていない。教科担任制にはすごく魅力を感じていて、ただそれは5・4だけじゃなくて6・3でもできるのではないかという気もする。子どもの立場ばかり考えると先に進めないで、ちょっと言い方は悪いが、大人の都合も押し通さなければならない部分もあるのかなど。その中で、先生方も教育委員会も5・4のほうが動きやすいということがあるのなら、そこは5・4を押し通していただいていいのではないか。ただ、5・4でやると決まったことに対して、じゃあ子どもたちには必ずこういうことをしてくださいねという意見が出れば、それに対してはきちっと対応していただければいいのではないかというのが今の気持ちである。

副委員長 わかった。それぞれ委員の意見もきいて、学校側の立場からも、園も小学校中学校、園長、校長にも、もしご意見いただければと思うがいかがか。

委員 義務教育学校のメリットということが、教科担任制であったりということを思えば、5・4というのがいいのかなど。ただ、いろいろとお話を聞いていると、先生方の教科とかの調整は大変かなと思うが、5・4制かなど。

副委員長 いかがか。

委員 義務教育学校に賛成したのは、小さな町であるし、小学校、中学校が1つの教育目標とか大切な子どもたちを同じ目線で同じ考えで育てていくのだということが一番大切だというふうに思って賛成をした。教科担任制の話だが、中学校の先生がどんどん小学校に行くというイメージだが、例えば、小学校だけでも教科担任制は進めていくというような話で。配置される職員の持てる教科で。

副委員長 そのあたりは、決まってから具体的には決めていくでしょうし、人事上のこともいろいろあると思うので。そこはしっかりいろんな方面から考えていかないといけないと思う。いかがか。

委員 義務教育学校がいいのは、1つの方向でみんながやっていくということだと思う。何の力を伸ばしていきたいとか、どんな子どもにしていきたいかというのが、大事。ビジョンの部分で。例えば、外国語が出たが、小さい頃から英語、保育園からでも生の英語をシャワーのように浴びていくことで、すごくいい耳を持ち、そのまま発音していて言葉の獲得はこれだという話をしている。そういう視点でいえば、できることはどんどん小さいときからやっていき

いと思う。鹿野学園では、表驚（あらわし）科、表現力を育成しようという（教科がある）。週1回、1年生から6年生まで表驚科というので、劇みたいな週1回そういうのがあって、1学期はこういうテーマを表現していこうというのがあってみんなで発表するとか。そういう、専門家もいて普段できない授業をやるとか。そういうところで1年生も2年生も外国語どんどんやっていくとか。何をやるかというのがすごく魅力だなと思う。江府しかできないものや教育課程を組むとか。表驚科みたいな特別な教育課程とか。教科の部分も外国語も評価していくのであれば、無理してでも頑張る（教科担任を）入れるとか。小学校の教員も英語の免許を持っている教員がいる。その人を専科にして、英語は全部その人にまわすとか。大胆なやり方というか。子どもの移動手段が確保できるなら、その辺のメリットを、鹿野にはできない自由（な動き）にさせていただけるとありがたい。そういうのは5・4でも6・3でもできるのかもしれないし、どちらがいいのかというのは今ズバツと言えないが。それを実現していくにはどちらがいいのだろうかということで、やっていくのもいいかなと。

副委員長 委員の中ではいろんなビジョンが膨らんで夢も広がっているようだ。小の教員も中の教員も1つの学校としてビジョンをもって取り組んでいく、その形として今日5・4なのか6・3なのかということ、方向性を出そうというところで話をしていったが、委員ひとりひとりの考えや気持ちをお聞きして、5・4制がダメだという大きな意見はなかったように思う。大人の都合でというようなことも言っていたが、やはり教育委員会としてもこれを進めていく方がいいというところで提案をしていただいていることや、国の動きなどいろんなことも鑑みて、5・4制でいいのではないかと、そちらのほうに進む方が、強みにもっていけるのではないかとというのが大筋の意見だったのではないと思うが、5・4制のブロック制で今後話を具体的により一層進めていくということで今回まとめさせていただければと思うがいかがか。よろしいか。

《異議なし》

では、5・4制というところでひとつ方向性を決めたという確認をさせていただきたい。

委員長、いかがか。

委員長 5・4制、大賛成である。

副委員長 委員長の大賛成もいただいたので。今後は5・4制のブロック制でいろいろなことを決めていくが必要になる。次回は、校名・校舎名を決めていくということの委員会になると思うが、今後急ぐものという。

事務局 まずそのところ（校名）が条例改正のために必要になるので、校名・校舎名の選定、校章、校歌、そういった部分、このあたりをまず検討していかなければならないと思う。スケジュールの中にも挙げているが、もう少し早めに動いた方がいいのかもしれないとか、しっかり時間をかけてという部分は委員のみなさんと確認をさせていただきながらと思っている。

副委員長 そのあたりの協議内容については検討していただいて、提案していただくということでよろしいか。では、次回はその校名・校舎名を決定することになるが、スケジュール的にはいつがいいというのはあるか。

事務局 もう日程のことに入ってよいか。

委員 保育園の保護者のほうからも、5・4制にするところで、メリットやどういった経緯かという

ことを説明する説明会を開いていただけると。小学校の保護者中学校の保護者一緒でも（よい）。前回の議事録がホームページ上で確認ができていないが。

事務局 時間がかかっていて申し訳ない。この会に間に合わせようと思ったが、ぎりぎりに今日上げた。議事録は2回目はもう少し早くに挙げられると思う。申し訳ない。

先ほどの説明会の件、直接（保護者に）お話をする方がいいのだと思う。ただ、一方で密を避けてということもあるので、今までのような形ですということの方が難しいと考えた時に、ある程度広い会場が必要だと。時間的にも、あまり長時間にならないようにということも考えなくてはいけないのかなと思う。説明をということであれば、説明をさせていただかないといけないと思う。それを含めて検討させていただかないといけないと思う。

副委員長 保育園としては早い時期の方がよいか。この委員会としては5・4制でということになったので、そこのことを伝えるのにある程度早い方がいいのだろう。

委員 この間の保護者会の中では、前回、義務教育学校にしますという方向の時に、中学校で説明会が開かれたことがあった。みなさんそういうイメージでおられて、保護者会の役員の方々には説明したが、なかなか我々からではうまく伝わらない部分があり、そういう中でみなさんからは、どこかで経緯や良さ、そういうところをしっかりと説明してほしいという意見が（出ている）。事務局サイドから説明してほしいという意見があった。もう5・4制でやるということが決まったのであれば、早い段階でしていただいた方がいいと思う。あとは、どういう形で開催するかを小学校中学校のPTAのみなさんと相談しながらと思っている。

事務局 前回、私は違う立場にいたが、前回合同説明会を開いた時にはいわゆる保護者会、PTAが合同で説明会を開く。開く主体はPTA、そこの説明に教育委員会なりが来てというような話（だった）。もうひとつ確認したいのが、5・4制か6・3制か決まっていない段階の中でこういう議論とかこういう良さがありますということはあると思うが、今日の私の把握では、みなさん5・4制でということ、その確認はさせていただいたと思う。その上で5・4制に決まったという話をすることになると、事務局側だけではなくて、委員のみなさんがどうお考えになったかということもそこでお話いただくほうがみなさんにはわかりやすいのかなと思う。私のほうから説明をさせていただくが、委員としてやはりこういうことが良いと思ったというふうに言ってもらくと、みなさんも、ここでしっかり話し合っておられたのだということ意識していただけるのかなと思う。

副委員長 会をどうするかということは、この場で協議をして決めるのか、それともPTAの方で、まずこういった会を開こうかというふうに相談してもらって、そこに事務局が来てもらうという形、前回と同じような形がいいのかもしれないし。いかがか。

委員長 この会でというよりは、むしろ保護者会、保育園（保護者会）に音頭をとっていただいてセッティングしてもらおうと（よい）。5・4制に決まったという話をわかりやすくするという方向でされたらいかがか。

副委員長 よろしいか。会長中心にさせていただくということではどうか。相談をさせていただいて。

事務局 そういう形で進めてもらってよいと思うが、5・4制がいいと事務局が言ったが、具体的にはここで決めていただいたことであるので、この委員会としてこういう結論に至ったという形で、この委員会が前面に出ていただいた方がよいのではと思うが。当然説明は事務局がさせ

ていただくが。

- 委員長 僕が出るにして、みんなが集まってまた話をするような会はいいのではないか。
- 委員 前回やったような形でやっていただければいいと思う。あの時は確か委員長と副委員長が（前に出た）。説明は事務局にさせていただいて、あとは保護者とPTAが合同で声かけをしてやらせていただいたと。イメージとしてはそれで。
- 事務局 委員も出ていただいて。
- 委員 出られる方だけ出ていただいて。
- 委員長 出られる方だけで。
- 副委員長 この会の後で、委員長、副委員長とPTAとで日程とかそういったことを詰めていくということでもよいか。よろしいか。では説明会はするということで、具体的にどうするかは、この会の後で少し相談させていただいてということでもよろしいか。そのメンバーとしては、委員長、副委員長、PTAの会長、というところでもよいか。校長はいかがか。
- 委員 町P連（町PTA連合会）のまとまりというのがあるので、保育園の保護者会も一緒になってもらえれば。
- 副委員長 合同のほうがよいか。
- 委員 単P（単独PTA）よりは合同のほうが。
- 副委員長 合同がよいと思う。
- 委員長 合同というのは全員か。
- 副委員長 保・小・中の保護者全員が対象ということ。
- 事務局 何人くらい来られるのか。これだけ気を遣ってソーシャルディスタンスとっていながら、ものすごい数がどっと来られた時にそういった会を持つのがいいのかということもあって、校種別でやれば、回数が多くて大変だが、その方が密でないのではないかと思ったりするが。もっと人数が少なくなるので、ものが言いやすいのと。どんなものか。
- 委員 前回何人くらい来たか。
- 委員 30、40。
- 副委員長 中学校でやった。
- 委員 中学校で40人くらい。
- 委員 私たちも入れて？
- 委員 どうだったか覚えていないが、結構余裕があった感じがある。全体に対して余裕があった感じはする。
- 委員 椅子に座ってみな同じ方向を向いて。輪になるとかではなく。やるなら。
- 委員 全員来たら。
- 委員長 コロナのこともあるし、全体でなくてもいいと思う。小学校、中学校は義務教育学校になった時点でおよそそうなるということは想像してもらったのかなというような気持ちがあって。全体にしたにこしたことはないが、わーっと来られたら、それこそ大変なことになるので。なんでもない時にはいいが。保育園のほうに出かけるにしても、保育園の保護者のみなさんがわーっと集まってこられると大変。代表で役員さんしておられる方がおられるところで、僕らが出かけて行って、3密を避けながらわかりやすく話ができればというふうに思うわけだが。こ

これは私の考え方で。

委員 一応、意見としてはみなさんを対象にしてほしいと。保育園は特にだが。これから新しい学園に入る子どもたち、まさに一から始まって、そのへん保護者のみなさんにも意識をもっていたきたいという意見だったので。なかなか我々からみなさんにうまく説明できないというのもあるので、一応対象はみなさんにさせていただくほうがいいかなと。あとは、3密を避けるというのは確かにあるので、合同にするのか別々にするのかは（後で相談した方がよい）。

委員 一緒にやっても（よいのでは）。中学校の多目的ホールでやって、その映像をとってリモートでいくつか会場というのもできるが。

副委員長 参加していただくかを事前にとってもらったりしたらまずいか。それで本当に必要だったらリモートも考えるということで。その必要もないかもしれないし。とることができれば考えられるのではないかと思うがいかがか。

委員長 山村開発センターが一番広い。場所とすれば。

副委員長 駐車場が。

委員長 代表決めて出してもらおうという。役員でという縛りをつけないと。

委員 アンケート（出欠確認）をとるとよいのではないか。代表とすると、誰かに何かを言って、聞いた人がまた誰かに何かを言って、になってしまう。会話ができない。聞きたいこととか返事が聞けないかもしれないので。基本的には全員でやる方向で考えておいて、アンケート（出欠確認）をとって、その人数によってできるキャパで考えたらよいのではないか。

委員長 最初から縛らずに？

副委員長 広くみなさんの意見を聞くというスタンスでいいのではないか。

委員長 広く聞くというのもあるが、理解していただくという。特に地域のみなさんとの協力をもって進めるという、新しい学習指導要領も強力に打ち出しておりますし、そのあたり協力を得るためにはやっぱりそういうふうな段取りを経た方がいいのかなと今思ったところである。

副委員長 まとめさせていただきたい。各PTAには参加されるかどうかということの出席確認を事前にとさせていただくことは可能か。よろしいか。主体は設置準備委員会ということでよろしいか。そのための文書を教育委員会を通じて、保・小・中に出していただいて、参加人数の把握をしていただいて会場について3密を避ける対策をして実施ということで進めていくということよろしいか。この計画のことについては、この会が終わってから委員長と副委員長、あとPTAとで残っていただいて相談していただいてよろしいか。（特に意見なし）では、そのようにさせていただきたい。説明会を開くということで、よろしく願いしたい。そのほかご意見はあるか。

では、次回の委員会について開催日の決定をしたいが、この校名・校舎名のことの審査に充てる委員会になると思うので、いつ頃の時期が良いか事務局お願いしたい。

※第3回の期日についての協議

副委員長 では、これで委員会を終わりたい。

○第3回委員会

①日時：令和2年7月28日（火） 19:30～21:00

②場所：江府町防災・情報センター 2階 研修室

※応募作品を見ていただくため、午後7時には応募作品の閲覧を可能にする。